土耳其軍艦沈没の悲慘

廣く義捐金を募集して憐む可き罹災者の心情を慰め日本人の慈愛義俠を海外に表明せんとす

土國軍艦沈没の悲報は載せて前日來の時事新報に詳かなり本社此悲報に接し默して此不幸の出來事を看過する能はず日本國人の慈愛義俠なる斯る悲慘の報を聞いて亦坐視する能はざるを知り玆に廣く義金を世人に募り以て罹災者を弔慰するの資に供し極東の文明國慈愛義俠に富む事を世界に表明せんと欲す此事たる獨り慈愛義俠の情を滿足せしむるのみならず亦た一國の名譽に關するものあり世人幸に此計畫を贊助して義金を本社に投ぜられよ切に企望する所なり

明治二十三年九月　時事新報社

義捐金受取手續

一義捐金は一口十錢以上とす

一本社義捐金を受取りたる時は其金額幷に義捐者の姓名を本紙上に記載し之を以て金員受領の證とす

一募集の金を罹災者に贈與するの手續きは取調べの上本社之を定めて更に紙上に公告す可し

一募集申込の期日は來る十月十日を以て限りとす

横濱幷に接近地義捐者の便利の爲め時事新報貿易所なる同市本町四丁目鈴木清之助に義捐金受取方を托したるに付同所に申込みあれば直ちに本社に達すべし

時事新報

土耳其人送還軍艦發遣に就ての注意

義に土耳其軍艦エルトグロールの紀州沖に沈没するや我輩は我政府が國交際上の大義に據りて國賓たるオスマン パシャ以下五百餘名の弔祭を厚くし又萬死に一生を得たる六十餘名の遭難者を其本國に送還するには我軍艦を以てして慈愛義俠を天下に表白せざる可らず云々と述べたりしが此時世上の風聞に露國公使の所望に依り同國軍艦を以て彼の遭難者を本國に送還するの相談もある由にて我輩は日本外交法の爲に聊か失望する所なりしに世上有志者の其中には幸にして我輩と所見を同うする者もあり遭難者の送還は必ず我軍艦を以てせざる可らずとの義を主張し機敏なる我政府にても遽に此議を贊成して軍艦派遣の事に決したりと云ふ我輩は此事を聞知して區々希願の貫徹したるを喜び又我日本國の義俠心を天下に表白するの機會を得たるを喜び又我國の爲めに一大白を擧げて之を祝せざるを得ざるなり聞く所に據れば我政府は今度土耳其人を送還するに金剛、比叡の二艦を以てする由なるが我輩は此際當局者に一言して敢て其注意を乞はんとする者ありと申すは他に非ず此二軍艦は遭難者を土耳其に送還すると同時に直に歸國せんとするの見込なるか旭日旗章を地中海上に飜へしながら土耳其の一國に挨拶して匆々歸路に就くが如き軍艦遠航の本意に非ず左なきだに我海軍の實勢を西洋諸國に示すが爲め彼の國の諸港を巡廻し到る處に好評判を得て其名聲を遠邇に敷き世界諸洋の航海に其衛の熟練研究を積み海軍上に一大進歩を與へざる可らざる折柄あれば今度送還の序を以て歐洲諸港を巡廻し太西洋を横切りて米國東岸の港場に立寄り南亞米利加の極南を廻り地球を一周して歸朝するは二軍艦遠航の目的ならざる可らず斯くて遠東日本國の軍艦が國交際の義を重じ慈愛義俠の心を以て土耳其遭難者を送還したる其歸途來航したるものなりとあれば歐米各國到る處、義聲先づ其社會を振ふて何れの港に着するも拍手喝采の敬禮を受け此處の宴會、彼處の招待軍人上陸の度毎に盛宴に上客たるの場合などは極めて多きなどある可し先方より招かるれば我れよりも亦た之を招き應酬禮節等の爲めには多少の費用に頓着せずして充分餘裕を示す可きは勿論、彼の國人が珍らしさの餘り我軍艦を一覽し艦長以下水夫等の服裝風采を一覽し言語擧動の隅々まで一々眼を着けて批評するは固より當然なりと覺悟して士官には英語等に熟達する者を撰み乘込水夫に至るまでも日本の海人として愧ぢざる者を人撰するなと肝要なる可し蓋し今度出發せんとする軍艦は我海軍を代表するのみならず實は日本國を代表して西洋諸國人に接するものなれば乘組員の一擧一動も日本全國に關係して評判に輕重を生ずるなとあるべく從來各國の軍艦共に久しく遠洋を航行して或る港場に着すれば乘組水夫等の人情として上陸匆々市店に飲み一夕の愉快に無聊を慰めて其勇氣を鼓舞するは誠に通常の事なれども港場は人氣も荒々しくして或は言葉の行違ひより或は情實の不通より鬪もすれば水夫等の酒機嫌を犯し一場の悶着を引き起すの例は毎度聞見する所にして尋常一樣の軍艦なれば深く咎むるに足らざれども今度我軍艦の一行は慈愛義俠の大節に據り萬里に使命を奉ずると同時に日本の海軍を代表して模範を示さんとする者あれば假令へ如何樣の軍情ありも其軍紀風紀上に一點の批評を容れしむ可らず我日本海軍人の常に規律を重んじて其言行を慎むは隱れもなき事實よりして我輩の厚く信ずる所なれども今度の軍艦一行は其責任重大なるが故に我輩は其乘組員に充分の精撰を爲さんなとを望み頓て二軍艦が遭難者を送り屆けて日土兩帝國の交情を永遠不朽に親密ならしめ歐米諸國に至りては順次厚遇優待に接し首尾よく滿世界の名譽を載せて意氣揚々歸朝するを待ち敢て一片の老婆心を陳して當局者の注意を乞ふものなり

雜報

○海軍艦船の種別　海軍にては去る八月艦船籍條例を設定し同所屬の艦船を第一種(戰鬪航海の役務に堪へざる軍艦)第二種(水雷艇)第三種(戰鬪航海の役務に堪へる軍艦)第四種(運送船、曳船、小蒸汽船)第五種(倉庫船、荷船、雜船)の五種に區別して艦船簿に登錄する事と爲りしが今該條例に據りて定めたる軍艦水雷艇の種別を聞くに左の如し

第一種　浪速、扶桑、高雄、武藏、八重山、橋立、筑波、愛宕、天城(以上横須賀鎮守府所管軍艦)金剛、比叡、大和、筑紫、葦耶、赤城、鹿島、千代田、天龍、風翔、(以上呉鎮守府所管軍艦)松島、千島、大島、秋津洲、日進、磐門、鳥海(以上佐世保鎮守府所管軍艦)

第二種　小鷹、第一水雷艇、第二水雷艇、第三水雷艇、第四水雷艇、雲雀、千鳥、(以上横須賀鎮守府所管軍艦)千代田、(以上呉鎮守府所管軍艦)春日、福珠(以上佐世保鎮守府所管軍艦)

第三種　右の内橋立、鹿嶋、千代田、松嶋、千嶋、大嶋、秋津洲等の諸艦は當時尚は本邦又は外國に於て造船の工事中に係るものあるが最早追々竣工を告ぐる由なり

○大臣政治の一弊と云はんか　故森有禮氏は大木氏の後を襲て文部大臣の職に就くや着々自家の定見に依り學制を改革する中にも師範學校は小學教育の源泉とし縣に於ては此の不便を感せし爲め昨年末遞信省に請願して深く意を用ひ府縣の人口及び學齢兒童、就學生の數を參酌して各尋常師範學校に於て養成すべき生徒の人員を定め足らざるものは漸を以て增し、多きは減じて定員に至らしめ又設備準則なるものを發して一定の師範生を養成するに足るべき物件を備付けしめ從つて校長の給額、教員の人數等には特に注意し師範學校の經費に就き縣會の議決案を各府縣知事より報告するに非常の便利を得る事あるにして殘餘は同縣下人民の當世の紳士

○見くらべ　千億萬年前の怪物、千

○地中電氣線と爲すべき電氣燈の使用者も非常の便利を得る事あるべきは方今其電氣線は同縣下人民の當世の紳士

も明細なる豫算書明書を附して差出す事とおしたれば其報告書は數千葉の一冊子となれども縣會の議決と對照して其議決の果して認可すべきものあるや否を見定むるの便あり又兵式體操を課目中に編入して氣質の鍛練を務め小學校の教育も徒に智育に偏して藝のみを教ゆる事を主とせず人物養成を專要とすべしとて人物査定法を設け又中學大學の教育法をも改良せんとて頗る一國教育の事に注意し省中の官吏とあれば官等の高下を問はず等しく應接して說の採るべきは採りしも一朝賊手に斃れてより授本氏大臣となり次て芳川氏之に代りしが氏は大序を重んじて事の簡易を尙び事を謀るは局長に限り其以下の役人にして苟も教育上の說あらば唯局長に依て其申すべき樣にし寫事順序を確守し着々教育上に改良を加へ故森氏在職の當時に發したる命令等も次第に其方針を一變する樣に至りしは昔年より同省の事務を司りて經驗に富みたる諸局長の贊畫に依り爲めなるべけれども一方より此の現象を見れば森氏就職の以前即ち大木喬任氏文部卿たりし明治十八年頃の教育世界と類似のものに引き直さんと務むるが如き傾向ありといふ然れども故森氏の如く自から畫策するものに在ては舊法に如何なる弊ありて新法を施行せしかの理由を詳記せる書類あき事、時に之あきを知せず素より部下の吏員の案に出るものなれば詳略に拘らず舊法の欠典を擧げて新案の施行を主張せる書類必ず存在すべきも大臣自身の案にして計畫の事業最中に在ては新法施行の必要を說明せし書類を作るの暇なし左れば森氏在職の時に學校令の發布ありしは教育令に如何ある欠典ありし爲めにや教育制度史編纂に際し文部省内にも其邊に關する詳細の書類なき由なれば森子を黃泉より呼び戻して尋ぬるより外は其正の理由は斯々と斷言し難く此處等が大臣政治の一弊とだも云はゞ云はんか云々と或教育家は何か意味あり氣に物語りしとかへり

○編纂の模樣變へ　文部省に於て編纂したる日本教育史資料の第一卷は此程已に梓に上れり右は各藩の學制を詳しく取調べたるものにて他年若し日本の教育史を編纂するに當りては充分參考の用に供すべき價あるなりとは一覽せしものゝ既に知る所あるが聞く所に據れば最初文部省に於て此事に着手する頃には日本の教育史を編纂する見込なりしも人と時とを要するは申す迄もなく中々以て容易の業にあらざるより其後模樣を變へて資料と爲したる由尙は同書は今二卷を發して大成する都合なりと云ふ

○田邊新宮間の電信　和歌山縣下熊野地方は南海に突出せし局端の場所にて通路の艱難なるより常に通信往來に不便を感じ殊に大嶋の如きは屢々難破船あれども其際、急を報ずるに由なく今回土國軍艦の沈没事件も幸ひ共榮社汽船防長丸の來合せ居たるが爲め神戸に報道するを得たる次第なるが若し同船の來合せ居らざる時は數日の後にあらざれば之を知る事能はざるべし左れば電線架設の必要は言ふまでもあき事なるが和歌山縣に於ては此の不便を感せし爲め昨年末遞信省に請願し田邊電信局より申本村を經て新宮迄凡四十里間に電線を架設する事に決し本年の春開屆られ先頃より工事に着手し居るも何分岩石の塊所多く電柱理建の穴を穿つにも容易あらざる難所多く爲めに工事捗取り兼ねれども最早數月を出で ずして落成を告ぐべく申本村より大嶋の對岸迄は海上僅かに一里半なれば落成の上は

○確氷鐵道の工事　昨を急き居りし確氷峠の

○山陽鐵道の水害　去地方に在る山陽鐵道沿部に於ては播磨揖西郡防破壞しその爲め又は

○海軍士官の進級　海

○大臣の巡視　海

○海軍士官の進級　海